



今月は「カタール」を覚えてお祈りください

カタール国は、中東・西アジアの国家。首都はドーハ。アラビア半島東部のカタール半島のほぼ全域を領土とする半島の国。ペルシャ湾(アラビア湾)に面する。南はサウジアラビアと国境を接し、ペルシャ湾を挟んで北西はバーレーンに、北はイランに、東はアラブ首長国連邦(UAE)に向かい合う。

カタールの経済・政治・宗教について

カタールの経済を支えているのは石油製品である。石油製品は輸出の85%を占めている。カタールには世界最大規模のガス埋蔵量がある。石油によって得た収入は様々の分野へと配分されており、カタールの経済活動は急速にそして幅広く成長している。カタール人たちの多くは裕福であるが、カタールに住むアジア人たちの経済的には十分に恵まれていない生活を強いられている。

カタールは1918年までトルコのオスマン帝国の一部であった。その後、1971年に独立するまでイギリスの保護のもとにあった。カタールの現アミール(地方総督)は1995年に父の座を奪って支配者となっている。カタールは国内的にも外国に対してもとてもオープンである。

カタールの宗教はイスラム・スンニ派の中でも厳格なワッハーブ派である。イスラム教徒を他の宗教に導くことは禁じられている。しかし外国からの移住者が自分たちの宗教を守ることは禁じられていない。

カタールのその他の情報

面積:11,400 km² (日本の約3%) 人口:1,508,322 (日本の約1.2% 2010年時点)



宗教:	
イスラム教	88.39%
キリスト教	5.91%
ヒンズー教	2.70%
仏教	1.90%
無宗教	0.55%
その他	0.35%
バハイ教	0.20%

カタールの首都「ドーハ」

カタールの砂漠

首都ドーハの「ラクダ市場」

「主よ。あなたに並ぶ者はありません。あなたは大きいなる方。あなたの御名は力ある大いなるものです。」 エレミヤ 10:6

祈禱課題

少数であるカタール人クリスチャンを覚えて

少数のクリスチャンたちは、アラブ、ペルシャといった国々で奴隷であった背景を持っている。カタール人はほぼ100%の確率でイスラム教徒である。カタール人の教会が生み出されなければならない。また、家で過ごしているカタール人や海外に住むカタール人たちがイエスについて聞く機会が必要だ。

カタールに住む移住者たちを覚えて

カタールでは高収入の仕事に就くことができるので海外からの移住者が多い。移住者の中にはクリスチャンも多いが、カタール人に対する布教活動が禁じられている。そのため、現場での仕事から管理職にいたるまで、あらゆるところにクリスチャン労働者が必要である。神の臨在を携えて働くクリスチャン労働者が増しくわえられなければならない。

クリスチャンたちが安全に集まることができるように

イエスの名において集まることは、政府の方針によって制限されている。それなりの規模で集まるための施設を借りるには多額のお金が必要である。特にアジア人たちは大きなコミュニティーを持っているが、施設を借りる良い機会がまだ与えられていない。また、宣教拠点や礼拝拠点として借りることができる場所もまだ見つかっていないようである。

クリスチャンたちがカタール社会に良い影響を及ぼすことができるように

カタールにはいくつかの外国人コミュニティーがある。例えば、フィリピン人、西洋人、レバノン人、インド人、パキスタン人たちが多く住んでいる。これらのグループにはクリスチャンもいる。クリスチャンたちが結実するあかしをもって自分たちのコミュニティーで生活できるように。また、それぞれのコミュニティー内でイエスへの信仰があかしできるように祈らなければならない。